

小和田駅舎



「かつて塩沢集落の更に山奥に徳久保(とつくぼ)という集落があった。そこにはネズコの巨木とともに集落跡が静かに残っている」

昨年になんな話を伺ってから、長らく徳久保集落を訪れたいと思っていましたが、ようやく実行することができました。今回は飯田線小和田駅を下車後、塩沢集落を経由して徳久保集落に徒歩でアクセスしましたので、道中の写真とともに探訪録をお届けします。

小和田駅と塩沢集落をつなぐ道

小和田駅はかつて塩沢集落を含めた周辺の集落の住民が利用していましたが、現在地元の方に利用されることはほとんどありません。一方、その秘境感を求める観光客や鉄道愛好家などから根強い人気があり、駅舎の思い出日記帳には、訪れた人たちの膨大な手記が残されています。

新婚さんに人気だった



駅舎前の景色

塩沢に向かう歩道



ツチアケビが生えていました



「ヤッホーと 恥じらうことなく 叫ぶ妻」

小和田駅の開放感が伝わり、微笑ましい情景が浮かんできました。

小和田駅は一度下車すると二時間程度は電車が来ないのですが、この日記帳を広げながらゆっくり時間を過ご

日記帳の端っこに走り書きでどこかの誰かが書いたこんなメモが。

すのもまたおすすめ。駅から塩沢集落へと続く歩道は、かつての生活道としての名残で「市道」扱いになっているそうです。小和田駅から一時間ほどで塩沢集落と天竜川林道に到着するこの歩道は、人が住まなくなった家や畑など、生活の跡が垣間見えるとても興味深い道でした。

駅前を流れる天竜川



日記帳





一緒に歩いて下さった小松実さんは、高校時代に年賀状を塩沢集落まで届けるアルバイトをしていたそうです。小和田駅から集落までの間を次の電車に間に合うよう、冬の寒さの中、急いで歩いた思い出がよみがえったようでした。

配達したお宅でみかんなどのお土産を持たせてくれるので、往路よりも復路の方が荷物が多いこともしばしばあったそうです。

徳久保集落へ

塩沢集落から天竜川林道を天龍村方面に向かって三〇分ほど歩き、さらにそこから山を一時間半ほど登ったところに徳久保集落があります。

車社会とは無縁な場所に位置しており、昭和の前期まで炭焼きなどをして生活してい



人工林を歩く

たようですが、今では衛星画像で確認しても集落があった痕跡すらわかりません。昭和二五年の人口動態調査で既に徳久保の名前が消えていたの、少なくともこの頃には、ほとんど人が住まなくなったのだと思われれます。

集落の様子

廃屋が一軒と神社跡があったほか、建物は確認できませんでした。石積み跡はたくさん確認できました。廃屋には昔の大きなノコギリや鉄の塊のような重いチェーンソー、鉄瓶などが残されていました。集落の入口には炭焼き窯の跡があり、かつての生活の様子が垣間見ええました。

ネズコ巨木

樹齢八〇〇年ともいわれるネズコの巨木が集落の中にどっしりと構えています。さらとした赤みがかった樹皮と鹿の子を思わせる白い斑点から、非常にしなやかで美しい

印象を受けました。枯れた枝が何本も張り出している様子は、生き物の骨を思わせます。朽ちゆく廃集落の中で、今なお生き続けている一本の巨木の姿が記憶に焼き付けられました。

ここに来て良かったです。今まで多くの集落を歩いてきましたが、これらの情報をまとめで、しっかりと地域に残していきたいと考えています。

神社跡



石垣



ノコギリとチェーンソー



廃屋



※ 林道をはずれてからの山道は、「山に生きる会」が案内の印を付けてくれていたりといえ、わかりづらい箇所も多いです。今回、新たに印を付けたので、倒木を処理したりしたので、わかりやすくなったとは思いますが、単独で初めて来訪することはあまりおすすめできません。行かれる場合は、地図やGPSを持参することをおすすめします。

ネズコ巨木



特徴的な鹿の子模様



山勤めと 幼少の記憶



兵越峠～青崩峠歩道にて (令3.4)

特集
水窪の人と暮らしの軌跡

■熊谷 修さん■

★昭和二十二年生 水窪町長尾在住
★昭和三八年 水窪営林署に就職

・定年後も非常勤職員として国有林のパトロールや登山道整備を実施

「水窪の山と生きる」

「あの山は黒法師でその横が丸盆
そんでその尾根を超えていくと・・・」

水窪の山を熟知している熊谷さん。一緒に山を歩くと、遠くの山を指さしながらすらすらと山の名前が出てきます。山のことを知りたい私にとっては、長年水窪の山を見続けてきた熊谷さんから学びたいことは山のようにあります。

水窪には色々な分野で深い経験と知恵を持っている方がたくさんいらしゃいます。こういった方々のお話を深く伺うことで、自分も水窪のことを語り継ぐことができるの端くれになれたらいいなと思い、取材を始めました。

皆さんにとってもこれらのお話が新たな発見になれば幸いです。

※ できる限りご本人の言葉のまま、語り口調の文章にしました。
(一) 書きで一部補足をしています。



鹿の平にて (令3.7)

国有林の仕事と思い出

営林署に入ってからからは、森林鉄道の保線とか集材機や重機の運転もやったし、たいていのことは経験したね(※)。

駆け出しの頃、盆や正月で山を下りるときには、班の人(臨時雇用の作業員)がおこづかいをくれるのが嬉しかったよね。ご苦労様でしたって。あの衆は出来高だからやればやった分(報酬を)もらえるからね。おらは常用だから定額だったけど。伐採する衆も材を運ぶ衆も出来高だっつね。その日の作業終わりの時分になると「晩酌代!」つってちよつとだけ余分に仕事してたよね。

【※解説】 当時は山奥の木を索道(ワイヤーで吊り下げた輸送機器を使って物を運ぶ仕組み)や簡易な軌道(鉄道)を使ってある程度のところまで下ろし、そこから森林鉄道の本線に積みかえて町の貯木場まで運んでいました。

貯木場を起点に二キロメートルほどもあったそうですが、水窪ダムの建設や林道の整備に伴い昭和三九年に全線が廃止になっています。



森林鉄道



盤台：索道に荷掛けする場所（昭32年）



水窪貯木場（昭30年）

幼少の記憶 山と遊び

（子供の時分には）子供がおったおった。遊ぶことは多かった。自分らで竹馬つくったり手裏剣作ったり。とんでもない山の方で遊んだ。山にある作り畑（焼畑）で子供だけでも遊んでいた。親もあんまり心配しなかった。西浦の「はくりや」の下あたりで、水かがみ（水中をのぞく道具）を使って遊んだね。一日中遊んだ。面白かったね。

多いから子供と大人が知り合いになるね。（山仕事の場合だと）一つの山を庄屋が買うと一月も三月も（林業の作業員が）ずっといるしね。休みも皆一緒だからお祭りとか行事もやりやすかったよね。

学校帰りに貯木場に寄っては森林鉄道に乗って遊んだよね。森林鉄道の線路に耳付けたりして遊んだね。音が響いて面白かったね。

正月と盆になると森林鉄道に乗って営林署の人が降りてきて手をふった。あの頃は営林署って呼ばずに御料の衆って言った（今は「森林管理署」）。

幼少の記憶 牛も家族と一緒に

田んぼを耕すために牛を飼ってたね。牛乳背負っては牛乳工場に行ったね。うちの中に牛小屋があったよ。家族と一緒にだわいね。炊事場に土間があって、そこに牛や馬が顔を出してたね。牛乳は売るため。牛のたい肥を使ったキビ（とうもろこし）はうまかったね。



熊谷さん夫婦：山に生きる会イベントにて

編集後記

取材内容以外にも熊谷さん夫婦と面白い話に花を咲かす楽しい時間でした。奥さんの道子さんは中日新聞の投稿欄に何度も採用されていて、過去の投稿もたくさん見せていただきました。その中のひとつを最後に紹介させていただきます。今回の特集を終わりたいと思います。

「もう一箸おくれ」

「もう一箸おくれ」この素敵な言葉に心躍らされたのは、四十年ほど前のことでした。小麦畑が黄金色に輝くころは、祖父が一番活躍した季節でした。印籠ときせるを腰に付け野良仕事に。昼時、大きなしわだらけの手の中に納まった茶碗を高々と掲げて「もう一箸おくれ」と私の目の前へ。上品なすてきな言葉を初めて耳にして感動したことを覚えていいます。

大好物の魚の前に、お代わりする祖父。目をつむり、味をしっかりかみしめているかのように食べている祖父の顔を、かしわ餅を作りながらふと思いつかべました。祖父と一緒に暮らした七年間、わが家流の農事歴や年中行事を教え込まれました。その行事の一つが、今回祖父を思い出すきっかけとなったかしわ餅作りでした。「もう一箸おくれ」。現代離れたこの言葉は、ご飯を盛りつける私を古い時代へと導いてくれるようなわくわくした気分させてくれました。

祖父は既に亡くなってしまいましたが、「もう一箸おくれ」と私も言ってみたくて、このすてきな言葉を胸の中でずっと温め続けています。

そしていつか誰かに聞いてもらいたいと思っています。

熊谷 道子

（平成二三年六月 中日新聞掲載）

<連絡先> 栗島：080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▶▶ <https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/>



水窪の人、暮らしの取材を進めています。この人を取材してほしい！などありましたらいつでもご連絡ください。



山いき隊員だより (栗島隊員)



小学生と野鳥の森

小学校1, 2年生の野鳥の森散策に同行してきました。子供たちの日頃の行いのおかげか、当日は雲ひとつない快晴でした。7~8歳の子供たちが3時間も山を歩くのは、なかなか大変なことだと思うのですが、それをわかりながらも学校としてこういうプログラムを組み込んでいるのはとてもすごいことだと思います。

先生方の体制づくり、山に生きる会のサポート、保護者の理解、子供たちの活力、とれが欠けてもできない魅力的な取組だと思います。



野菜を育てる会 野菜作り講習会

11月27日に行う秋野菜品評会に向けて、野菜を育てる会が会員向けに野菜作りの講習会を実施しました。農林事務所の職員が会員の畑で実際に野菜の生育状況と照らし合わせながら、解説をしてくださいました。対象となる野菜は大根、ニンジン、白菜ですが、各会員の畑ごとに生育状況や色合いに違いがあって面白かったです。品評会では野菜の販売も行われますので、是非足を運んでみてください！



夏焼集落と富山村

佐久間地域の同僚、天竜区の地域振興に携わる方とともに、意見交換と地域案内を兼ねて夏焼集落と愛知県の豊根村(旧富山村)を歩いてきました。夏焼集落へは、飯田線大嵐駅を下車後に徒歩で1kmほどの夏焼トンネルを抜けて向かうことになります。このトンネルはかつて飯田線の路線として使われていましたが、佐久間ダム建設に伴う路線の付け替えにより、昭和30年に廃線となりました。ダム建設により、向かいの富山村の住民の多くが移住を余儀なくされたようですが、それによる夏焼集落への物流や人との交流への影響も少なからずあったのだろうな、と思います。

夏焼集落は、天竜川を見渡せる少し高い位置にあります。夏焼トンネルを抜けて集落にたどり着くまでに、作業用モノレールやハチの巣箱、茶畑の跡などを確認することができ、人々が暮らしていた確かな証を感じます。夏焼集落が取り上げられているテレビ番組を見て、10年ぶりにまた訪れたいなというご年配のご夫婦とも偶然お会いしました。私もこの集落には何度もお邪魔させていただいていますが、そのたびに「また訪れたい」と思わせてくれる場所です。



夏焼集落周辺の衛星画像と今回の散策ルート



出張シリーズ：各地で頑張る山いき隊員



天竜地域：鈴木 真里さん（令和3年1月～）

熊、上阿多古、下阿多古地区を中心に活動しています。この仕事を始めてからノルディックウォーク指導員の認定を受けており、熊地区を舞台としたノルディックウォークの指導員として活躍しています。その他にも、阿多古和紙などの地域の伝統文化の伝承、地域の方々から譲り受けた本を紹介する移動図書室「あたごくま図書」の運営、Instagram等を用いた地域情報の発信、地域住民との交流など、とても精力的に活動をしています！頻繁に更新される隊員通信も情報満載で魅力的です。

同僚である私の意見交換の相手になってくださったり、相談に乗ってもらったりもする頼れるお姉さんです。

【Instagram】
「あたごくま」



秋のノルディックウォークinくま

11月13日（土）、11月27日（土） 受付 9:00 開始 9:30

- ★ ベースプランは1,000円、ランチ付きのプランは3,000円
- ★ 受付は「健康長寿の邑くま」本部事務局にて

詳細情報・ご予約はこちらから！ →



※ ランチ付きプランは当日の3日前まで

TAKIの森マルシェ（※雨天中止）

11月14日（日） 10:00～16:00

- ★ 会場：TAKI駐車場（天竜区上野1494）
- ★ フードコーナーが多数出店するほか、テントサウナの体験なども予定



編集後記

今後も折に触れて他地域の隊員の活躍を紹介します。もし彼ら彼女らをイベントなどで見かけた際には、是非お声がけください！皆さんの声が私たちの励みになります。

<連絡先> 栗島：080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▶▶ <https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/>



林野行政職員と
天竜林業を学ぶ

林野行政に携わる若手行政職員の現場研修に際し、その視察先として天竜区を中心とした浜松市内の林業事業者や木材産業関係者の方々を紹介させていただきました。

当日は、私も同行して一緒に勉強させていただきました。天竜は歴史ある林業地域であり、山の管理経営にこだわりを持っている方々も多いです。これから林野行政に深く関わっていく若手職員にも、林家さんの思いや山づくりへのこだわりが伝わったのではないのでしょうか。



天竜区内の林家に学ぶ



季節のトピック

さんま

秋といえば「さんま」ということで、帰省した実家でさんまを焼きました。U字溝に炭火を入れて焼くスタイルは細長いさんまを焼くのにはちょうど良いのではないかと感じました。

去年水窪でさんまをいただいた時には、目に尾びれを突き刺してドーナツ型にし、炭火に直接放り込んで焼く調理方法に、「こんな焼き方があるのか!」と面食らった覚えがあります。輪っか状にすることで「均等に火が通る+ひっくり返しやすい」というメリットがありそうです。

水窪らいふ

栗島の個人ホームページ「水窪らいふ」の内容を大幅に改変しました。水窪地域の情報をより多く掲載するため「地域情報」ページを新設し、写真や画像も見栄えがするものに変更しました。自分の隊員としての活動内容のほとんどをここで報告しているので、「山いき隊は何をしているんだらう?」と感じていらっしゃる方にも是非ご覧いただきたいです。お手持ちのスマートフォンやパソコンで「水窪らいふ」と検索していただければ閲覧することができます。



地元の豊かな食、心のこもった産物、穏やかな生活に出会う!

Food & Drink & Craft

Grandscape

LAKESIDE MARCHE

11/20土 ▶ 23火 祝 11:00 ~ 17:30

[会場] 浜名湖パルパル 駐車場



LAKESIDE MARCHE

(レイクサイドマルシェ)

日時：11/20 (土) ~ 23 (火) 11:00~17:30

場所：浜名湖パルパル駐車場

山里いきいき応援隊の隊員が、地域の生産者やNPO法人から預かった商品を販売します。中山間地域のパンフレットや情報も用意しております。私(水窪地域)は20日と23日出店します!山に生きる会の木工作品、ライオンカフェの商品、みさくぼ路の里の干しシイタケ、水窪カレンダーなどを販売させていただくほか、地域の情報を来場者に向けて発信します。



イベント情報

SAKUMA TOWN

Emiri Yamada

山田 恵美莉



特集・出張編

各地で頑張る山いき隊

■山田 恵美莉さん■

★佐久間町城西出身
 ・高校生までを佐久間で過ごす
 ・高校卒業後、地域外へ
 ★令和三年一月より山いき隊の
 佐久間地域担当として帰郷

この仕事を始めた理由は？

佐久間の人と環境に恩返ししがたかったからです。一度地域を出て初めて「すれ違えば挨拶を交わす温かさ」とか「自然の豊かさ」って当たり前ではなかったんだ、と気が付きました。同時に、学校や近くの商店がなくなっていく寂しさも感じていました。そういう課題に対して何ができるわけではないかもしれないけど、地域の人と一緒に当事者として向き合っていきたいと思いました。

どんな活動をされていますか？

高齢者向けのスマートフォン講座、川のクリーン作戦、小中学校の地域学習の講師、そのほか地域の困りごとを解決するためのお手伝いなどを広く行っています。またインスタグラム等を活用して、地域の魅力を発信しています。

今後は、川沿いのクリーン作戦のようなイベントをより多く企画して

いきたいです。あとは、親子で楽しめるような秘密基地のような場所も作ってみたいな、と思っています。自分が子供の時には山や川で時間を忘れて目いっぱい遊びました。それは中山間地域だからこそできる貴重な経験だと思うので、今の子供たちにもそういうわくわくするような遊びをたくさん伝えていきたいですね。

水窪の人たちにひとこと

水窪は小さい頃からずっと大好きな場所です。駅の下の青い橋は歩く音が鳴って子供心が惹きつけられました。川沿いの小道も良く散歩しましたね。これからもたくさん遊びに行くので、よろしくお願いします！

■編集後記■

山田さんと私には一度地域外で就職して、応援隊として天竜区に帰ってきたという共通点があります。

「なんで地域に思い入れがあるのか」という質問はお互いに良くされると思うのですが、言葉にするのはなかなか難しいです。何度もされてきたはずの質問に丁寧に答えてくれてありがたかったです。山田さんが話してくれたような「思い入れの原点」が地域を存続させていく原動力の一つになるような気がしています。



矢筈山

矢筈山の山道を整備してきました。矢筈山は水窪の街中からも良く見える両頭の山で、一方を長尾矢筈（なごうやはす）、もう一方を門谷矢筈（かどたにやはす）といいます。その見た目から、「ケツ山」と呼ぶ人も多いです。

長尾矢筈の頂上には、長尾集落の人々が祀ってきた神社がありました。今ではふもとに移設されましたが、当時はお祭りのために集落の人が山を登りました。



今でもその時に使われたモノレールがふもとから頂上まで続いています。

今回も地域の山を良く知る方々に同行させて頂きました。自分の倍以上も歳が離れているのに、ツルハシやロープを抱えて、飄々と歩いていく姿を見ると、自分も背筋が伸びる思いになります。その上、頂上で配るために全員分の柿をリュックに忍ばせていたりして本当にびっくりします。

やまびと語録

若い時は、みんな朝に二回飯を食ったよ。朝一番のご飯のことを「朝茶（あさじや・あさちや）」つつった。昔は朝が早いから朝茶を食べても十時前にはもう腹が空いたわい。



☆ 水窪お弁当スポットの発信 ☆

水窪では、地域内の商店で安くておいしいお弁当をいつでも購入することができます。お弁当を落ち着いて食べられるような場所の情報を提供できれば、地域外からいらっしやった方にも一層お弁当を楽しんでいただけるのではないかな、と考えています。

そこで、水窪に住んでいるからこそわかる「お弁当スポット」の情報をブログなどで発信する試みを始めました。初回は、総合体育館付近の川沿いのスポットを紹介しました。街の中心からも近く、まきうち商店や山道商店などでお弁当を買って町を散策しながら歩いていっても良いですね。自分はこの場所が好きで、良くここでお弁当を食べています。読書をしたり外で座って話をしたりするのも最適な場所ではないかな、と思います。



小学生と池の平



水窪小学校の三・四年生と池の平まで歩いてきました。倒木の上を歩いたり、シダの枝でバツタを作ったりするなど、山の遊びに夢中になってくれるのはとても嬉しいです。

今回は「山にはどんな植物が生えているのか」「きのこはどうか」「きのこはどうか」な場所に生えるのか」などそれぞれにテーマを持って歩いているのが印象的でした。

三・四年生だけでも今年度に3回も山を歩いたそうで、地域学習に対する小学校の思いも伝わってきました。

浜名湖で中山間地域の魅力を発信しました



浜名湖で四日間かけて開催されたレイクサイドマルシェに山里いきいき応援隊として出店してきました。

それぞれの地域の隊員が地域の農産物や工芸品を事業者さんから預かって販売しました。

水窪からは、山に生きる会の木製パズルや箸作りキット、みさくぼ路の里で販売されているお茶や干しシイタケ、ライオンカフェの山のスパイスを使ったカレー粉などの商品、水窪カレンダーなどを販売させていただきました。



山よりも海に近い場所での出店ということもあり、山ならではの商品や展示に足を止めて声をかけてくださる方が多かったです。地域のパンフレットをお渡ししたり、おすすめスポットを紹介したりなど、地域の魅力を発信することもできました。山里いきいき応援隊として、他地域の隊員と連携して活動することは少ないですが、今回のように、同じ浜松市の中山間地域として一枚岩となって情報発信していくことも大切だと改めて感じました。

協力してくださった地域の皆さん、ありがとうございました。



■ 水窪お弁当スポット紹介 ■ 塩の道公園



お弁当を食べた後に少し散歩をして帰るのもおすすめです。塩の道公園から水窪小学校を横目に見ながら本町の商店街に下っていく小道は、水窪の昔ながらの町並みを見ながら散策するのにちょうど良いコースです。

地域外の人に町を楽しんでもらうためには、「何か新しいことをしないと」という発想になりがちですが、こういった「すでにあるもの」を見直していくことも大切だと感じます。

前号に引き続き、水窪のお弁当スポットを紹介します。今回は、神原の「塩の道公園」です。

水窪に住んでいないとあまり立ち寄らないであろう場所ですが、水窪の街を一望できる穴場です。

あずまや、公衆トイレ、水飲み場があるため、安心して滞在することができま。わらしなど、塩の道らしいイラストもあって面白いです。

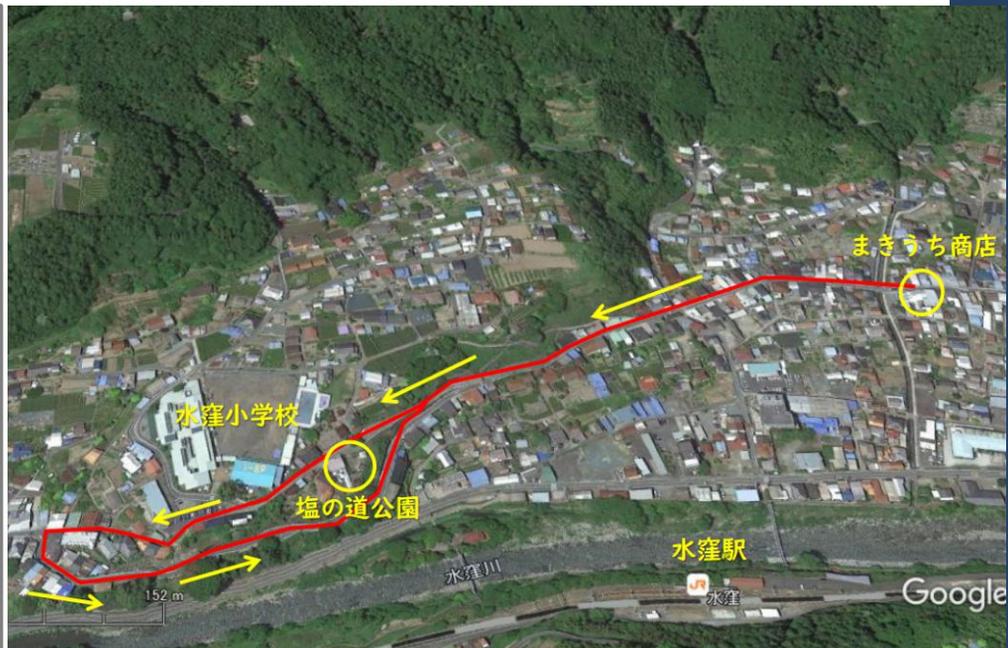
水窪の街を眺めながら頂く、まきうち商店さんの海鮮丼と揚げ物はとても美味しかったです。



■ 水窪お弁当スポット紹介について ■

水窪にはおいしいお弁当があるのに、ゆっくり休憩したりお弁当を食べたりするところが少ない、という声を良くいただきます。

そんなお悩みに応えるべく、水窪に住んでいるからこそわかるお弁当スポットを紹介する試みを始めました。皆さんのおすすめの場所などありましたら是非教えてください！



■ こぼれ話 ■

老木の枝に育っていたヤドリギが風で地面に落とされていきました。

ヤドリギの実には鳥の糞として排出されたときに木の枝にくっつきやすいよう、非常に粘性が高くなっています。枝に付着した実は根を伸ばし、宿主の枝に寄生しつつ、自分でも光合成をして成長します。

ヨーロッパでは神聖なものとしてされていて、クリスマスツリーの飾りにもなるそうです。



このたび、大学生に向けて、「浜松の中山間地域と生きる」と題した話をする機会をいただきました。その内容の一部として、私の故郷である春野町での暮らしや私の幼少時代の体験などを取り上げましたので、抜粋して紹介します。

水窪の話ではなく恐縮ですが、「水窪と同じだなあ」「栗島はそういうところで育ったのか」といった視点で楽しんでいただけたら幸いです。

■ 春野町田河内 たごうち

田河内は春野町の東側で川根本町との境に位置する集落です。かつて集落の子供たちが通った田河内小学校は、私の親世代の昭和四十四年に閉校しています。令和三年十二月時点の人口は八十六人です。集落共同の茶畑でお茶の生産を精力的に行っています。

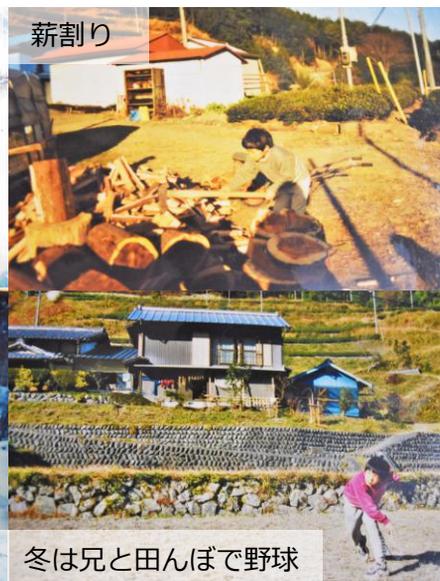
■ 子供時代の記憶

浜松市に合併する前は、熊切小学校、春野東中学校に路線バスで四十五分ほどかけて通っていました。中学二年の時に町内の三つの中学校が統合し、春野中学校となったこと

田河内集落の共同茶畑



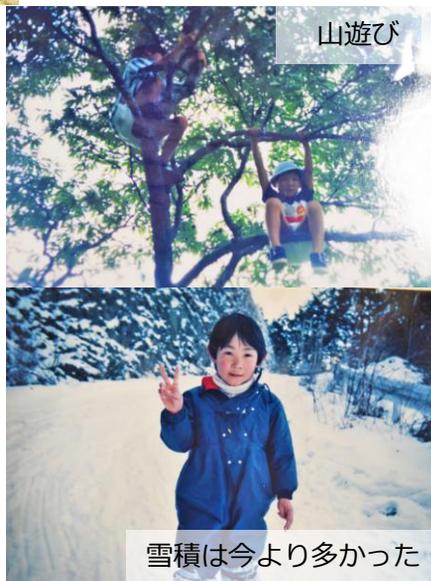
令和3年お茶刈りの一コマ



山遊び

薪割り

冬は兄と田んぼで野球



雪積は今より多かった

で、より離れた気田地区まで通うことになりました。田河内集落や周辺の集落に同級生がいなかったため、土日はもっぱら兄妹と山や川で遊んでいました。祖父母や両親に連れられて、山菜や魚を採りにいったり山を歩いたりすることもしばしばありました。平日の放課後は、路線バスが来るまでに一時間以上空き時間があったため、小学校で友達とサッカーや野球をして遊びました。土日には同級生に会えないので、学校では張り切って遊んでいたのを覚えています。

■ 水源の話

水は家の裏山であるセド山の沢から直接引いてきています。大雨の日には水が濁ります。水の出が悪くなった時には、水源のタンクやパイプの様子を確認しに行く必要があります。高校・大学で街場に出て初めて、実家の沢水のおいしさに気が付きました。

■ 熱源の話

お湯は薪を燃料としたボイラーで沸かします。燃えて炭になった薪は、掘りごたつの熱源にもなるので重宝します。薪を割るのは冬の仕事です。

薪にする木はスギ・ヒノキのほか、かなぎなど様々です。「かなぎ」とは、カシ・ナラ・サカキなど里山に生えるような広葉樹全般を指します。この辺りでは良く使われる言葉ですが、他の地方でも通じるのでしょうか。



薪



ボイラー



水源の沢



タンク



令和四年が幕を開けました！

■ 昨年は大変お世話になりました。本年もよろしくお願ひします。

早いもので私が令和二年の四月に水窪に来てから、一年九か月が経ちました。山里いきいき応援隊としての任期も折り返しを迎えました。昨年地域の方皆さんにはたくさんのお話を学びました。地域を歩き、取材をして水窪の文化や暮らしの情報を発信したり、事業者さんの広報支援をさせていただいたり、一昨年よりも一歩踏み込んだ活動することができました。

■ 本年は、前年同様、地域の人・場所の取材を進めるとともに、さらに深く踏み込んで、他の人を巻き込んでいくような地域整備活動や産業支援等に挑戦していきたいと考えています。本年も皆さんとお話できるのを楽しみにしています。

■ 年明けらしく、高根城から日暮れの水窪を、神原から夜明けの水窪を撮影しました。写っている山の名前をクイズ形式にしてみましたので、是非挑戦してみてください。答えはこのページの下に掲載しています。

暮れる水窪



明ける水窪



■ 西浦 年末の餅つき ■

今年も西浦田楽の里の餅つきに参加させていただきました。三遠南信道の建設のために西浦地区に滞在している工事関係者の方々がたくさん手伝ってくださいだったので、百人力でした。皆で集まってわいわいと話ながら作業するのが餅つきの醍醐味ですね。

さて、年始に餅を食べる料理といえば、一番にお雑煮が思い浮かびます。お雑煮の味付けは、東日本はすまし汁風、西日本ではみそ仕立てが基本ですが、皆さんの家ではどんな味付けをされているでしょうか。地域によってはあんころ餅を入れるお雑煮なんかもあるそうです。一度食べ比べをしてみたいですね。



TATSUYAMA TOWN



■ 長谷山 大騎 ■

令和3年4月から活動開始。浜松市出身。趣味はサウナめぐり。

□ これだ！と思った □

山いき隊との出会いは一年ほど前ですね。浜松市内で独自性のある面白そうな仕事を探していたところ、山里いきいき応援隊の募集を見つけ、「これだ！」と思いました。中山間地域で新しいことを始めることにもあこがれがありました。

□ 人と地域をつなぐ □

自分は「浜松市出身であり、周辺地域に知り合いが多い」という自身の強みと

「中山間地域の中では、天竜や浜松の街からのアクセスが比較的良い」という龍山地域の強みを活かして「人と地域をつなぐ」ことをテーマに活動しています。

自分が地域外の人を案内したり、地域外の人に中山間地域の暮らしを体験してもらったりすることで、継続的に地域に関わってくれる人が出てきてくれるのが嬉しいですね。

水窪の紅葉と



木工品試作



■ 鈴木 千陽 ■

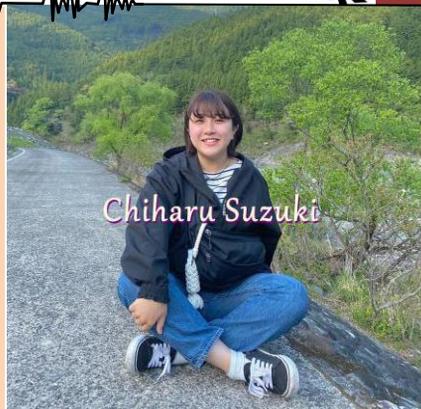
令和3年4月から活動開始。埼玉県出身。趣味は編み物とダンス。

□ 田舎の空気感が好き □

地域おこし協力隊の仕事に興味があったので、大学卒業後すぐに応募しました。私の実家も畑で野菜を作っていたり近所との付き合いが深かったりするような地域なのですが、そういった田舎の空気感が好きで、自分もそういう場所です暮りたいと常々思っていました。

□ 楽しみを増やしたい □

現在は、キャンプ場のお手伝いや農作業の支援、イベントの運営支援、資料等のデザインなど地域からの要望に応えるような仕事に携わることが多いです。



中でも一番印象に残っているのがキャンプ場での仕事です。管理人さんがキャンプ場に訪れた子供たちに山ならではの色々な体験を提供していて、この場所を通じて龍山に思い入れを持ってもらえる子供たちが増えていることを実感します。

今後は、趣味である編み物を活かした講座など地域の人の楽しみが増えるような活動にも挑戦していきたいです。もう一つの趣味であるダンスもうまく活用して、自分も地域の人も楽しくなるような仕事ができたら一番嬉しいですね。

龍山橋にて



自作の編み物





羊腸の道は深き
 碧山に連なり
 新涼たる風は
 昔日を懐かしむ
 遙かに望む
 信遠戦血の跡
 一木一草
 南朝を語る



去るクリスマススの日に、水窪の自宅から佐久間町の浦川まで一人で歩いてみました。県道二九〇号（水窪羽ヶ庄佐久間線）や山の中の旧道を経由して寄り道も合わせて二十五キロ程度の道のりです。今回は、その道中で特に印象に残ったところを紹介していきます。

■ 水窪く佐久間 ■

水窪から歩き初めて三キロほどの佐久間町城西にて国道を離れ、県道二九〇号（水窪羽ヶ庄佐久間線）に入ります。城西の芋堀集落と佐久間の街を結ぶこの道には、古き良き景色がたくさん残っていました。

県道沿いに位置しているのた、はがしやうしもつたいらる野田、羽ヶ庄、下平などの集落は、昔ながらの山間地域の集落の特徴を色濃く残している感じがして、とても好きです。山中には、かつて人が歩いた旧道が残っているとこもあり、あえて舗装道を離れて旧道を歩くのも良いです。「羊腸の道」

山中の旧道を歩く



野田から今田方面を望む



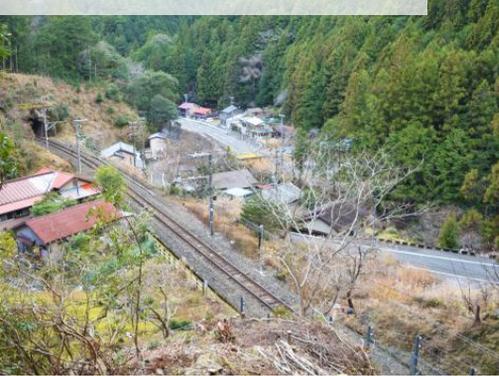
■ 佐久間く浦川 ■

県道を抜けて佐久間の街に出てからは、しばらく国道四七三号を歩き、存在感のある赤い中部大橋を渡って天竜川の対岸に出ました。そこからは、好奇心もあり線路沿いの山道を歩いていきました。旧道らしきところもあれば完全に道を見失うところもあり、舗装道に復帰するのに少し時間をかけてしまいました。ふもとの川合集落に続く道に合流した後は、下川合駅、早瀬駅を横目に見ながら浦川の街まで順調に歩いていくことができました。歩いていく途中で住民の方が話しかけてくださったのが嬉しかったです。

帰りは浦川駅から飯田線

龍王権現の滝





に揺られて帰宅しました。山間地域でありながら電車が通っているの、帰りのことを考えずに強気に歩くことができる良いルートでした。

■ おわりに ■

「労力をかけずに早く移動する」ことが当たり前になった今の世の中だからこそ、「自分の足で時間をかけて歩く」ことが、私にはかえって貴重で価値があることに思うえます。

歩くことをやめてしまうと、昔の人の移動の軌跡や暮らしの痕跡を見過してしまうような気がするの、今の仕事をしているうちになるべく色々なところを歩いて、それらを記憶しておきたいと思っています。



浦川の街



川合集落へと続く山道



中部大橋を渡り対岸へ

□ 一次産業に関わりたい □

大学で静岡県を離れ東京で生活をしていましたが、卒業後は静岡県に戻って仕事をしたいと考えていました。一次産業に関わりたいと思っていたので、森林組合に就職することに決めました。森林組合の人も町の人も、本当に良くしてくれてありがたいです。水窪はスノーパーもありますし、色々そろっていて、とても住みやすいです。ご飯も美味しくて、原木椎茸の美味しさに驚いたのを覚えています。

■ 永田 百香さん ■

出身 富士宮市・五年前に就職を機に水窪へ

仕事 水窪町森林組合職員



■ 水窪の人 ■

水窪町森林組合 永田 百香さん



射撃技術訓練センターにて



山仕事の広報イベントにて

□ 休日は山で狩猟 □

水窪に来たばかりの時に檻にかかったクマを解体する現場を経験させていただいた、それから狩猟を始めました。森林組合には狩猟をする方が多いため、仕事で山を歩きつつ、猟師の勉強もさせてもらえます。平日は森林組合、休日は猟師の皆さんと猟に出ることが多いので、いつも山に関わっていますね(笑)。

□ 森林組合の仕事 □

森林組合は水窪では誰もが知っている仕事なので、やりがいがあります。林業も狩猟も人手が少ないので、老若男女問わずもっと従事者が増えたら良いなあ、と思います。現場での伐採作業などはもちろん、山林経営の計画、山主さんとの打合せ、山林調査など森林組合の多様な仕事の魅力をもっともっと広めていきたいですね。

← 森林組合HP





■ 地域をめぐる ■ 草木 前編
 〽 暮らしの話 〽



■ 草木の特徴と暮らし ■

草木は、水窪川上流、白倉川、草木川に沿う遠州最北の集落であり、大きく草木区（遠木沢、北島、下草木、渡元）と大嵐区（大嵐、針間野、桐山、時原）に分かれています。

これら集落は水窪の中でも特に山と密接に関わる暮らしを営んできました。焼畑農業を含む農耕を営み、農業をしない時期には山林労働に従事してきました。今では、山は交通の面では不利に働きますが、自動車がなく徒歩や馬で移動していた時代には、かえって近隣のムラにたどり着く最短経路として、峠越え

① 遠木沢集落（道路整備前）



① 遠木沢集落（現在）



が盛んに行われてきました。草木においても、青崩峠や兵越峠を越えて和田をはじめとした信州のムラムラとの交易が盛んに行われていたそうです。そんな草木ですが、自動車道の整備や産業の衰退などにより、集落の縮小が進んでいき、現在では住民が一人もいなくなってしまう集落も少なくありません。今回は、人が住まなくなった集落の一つである遠木沢に住まわち、現在は小畑在住の竹中重利さんに草木を案内していただきつつ、かつての暮らしのお話などを伺うことができましたので、記事にしてみました。

■ 家と呼び方 ■

草木には「高氏」という苗字が多く、紛らわしさを避ける目的からか、各家のことを屋号で呼ぶことが多かったそうです。ウエキタガイト・コツチキタというように家の立地を指すものや、ホンケ・ナカインキョというように家の間の関係性を指す呼び方などがありました。竹中さんの屋号は「ゴンゲン」といい、これは家で伊豆権現をまつっていたからだそうです。

■ 幼少期の思い出 ■

小学校は草木分校に通いました。草木分校には、遠木沢・下草木・北島の子供が通いました。他にも大嵐分校がありました。竹中さんが子供の頃は、五・六人兄弟は普通で、小学校の同

② 竹中さん宅



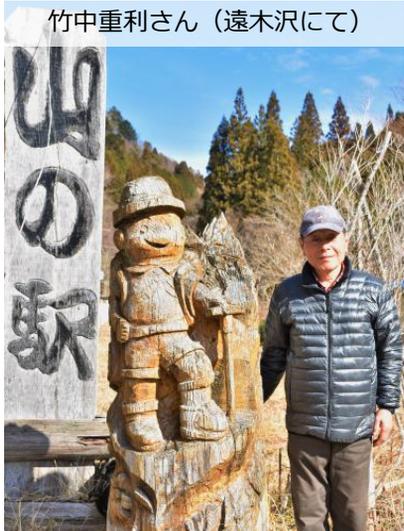
③ 草木小学校跡



③ 草木小学校



竹中重利さん（遠木沢にて）



級生も十人ほどいたそうです。小学校から空を見上げると、山で伐採された丸太を運ぶ索道の線が見えました。沢沿いには人の手で丸太を運ぶ木馬道（きんまみち）が付いていました。「木馬道の上で遊んで怒られたものです。高い所では、組まれている木材の隙間から下の景色が見えて怖かった。上級生が簡単に歩いて行くのをこわごわ付いていったね。」と思い出を話してくれました。

小学校を卒業すると渡元中学校に進学しました。遠木沢から渡元まで毎日歩いて通いました。竹中さんはバレーボール

部だったたそうで、「ボールが良く川に落ちて拾いに行っただね」と笑いながら当時を振り返ってくれました。中学校のとなりには田んぼがあり、そこに氷が張るとスケートをして遊んだそうです。

■ 牛のいる暮らし ■

草木には牛を飼っていた家が多く、竹中さんの家でも乳牛と肉牛を飼っていたことがあります。牛乳は矢落峠（やうつとうげ）を通過して町まで運びました。糞尿は肥料にもなったそうで、牛は当時の暮らしになくはならない存在だったことが想像できます。

■ 編集後記 ■

草木を案内していただいたいる時に竹中さんがつぶやかれた

「こうして地元の草木を歩いて回っていると、昔の思い出がよみがえってくるね。特に子供の頃のこと。」

という言葉が印象に残っています。こういったお話を記事にさせていただくことで、そこに住んできた方々の体験や思い出を、血の通った情報としてお届けすることができ嬉しです。

④ 渡元中学校跡



④ 渡元中学校



⑤ 大嵐分校跡



⑤ 大嵐分校



⑥ 針間野集落



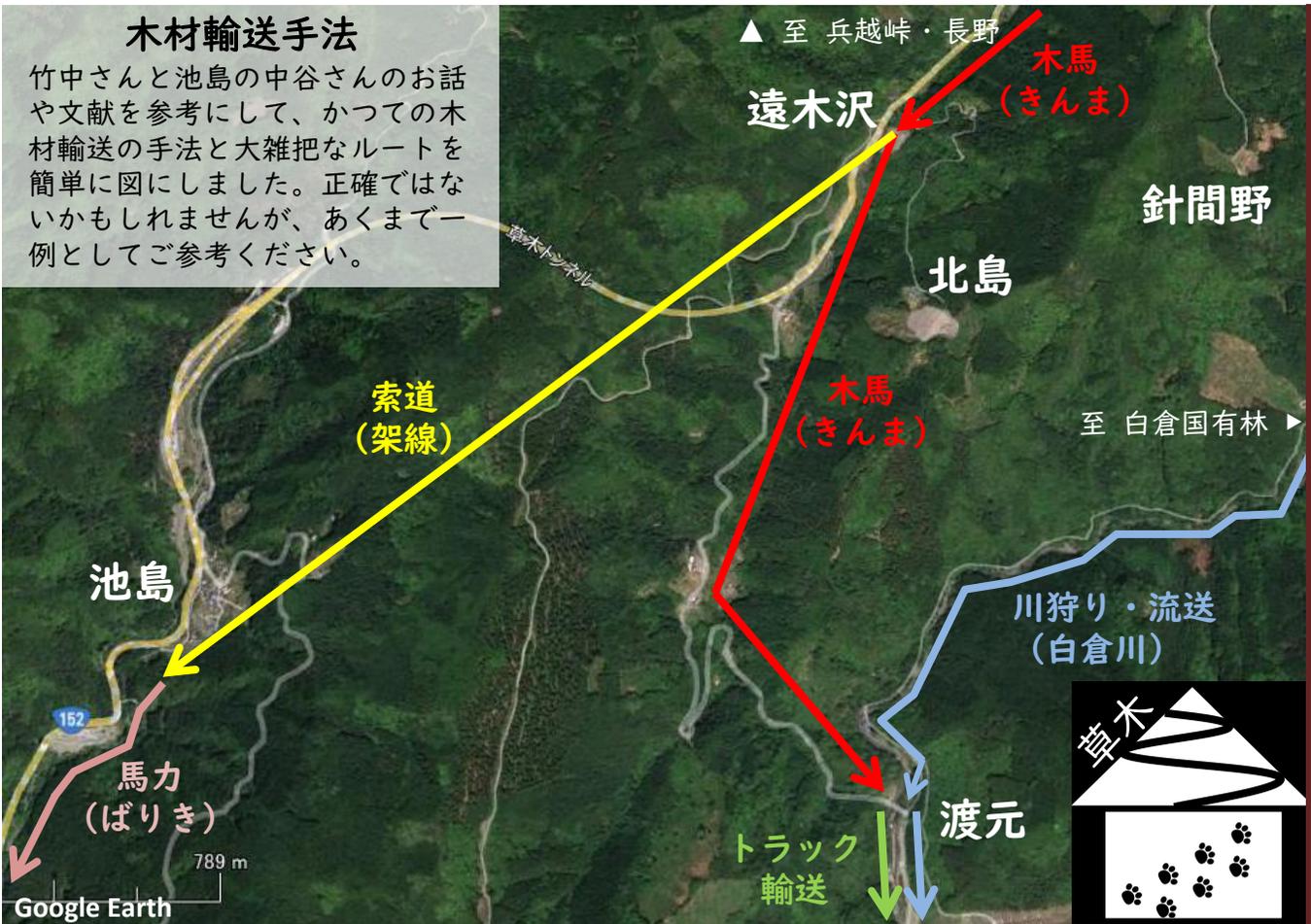
⑥ かつての針間野集落と牛



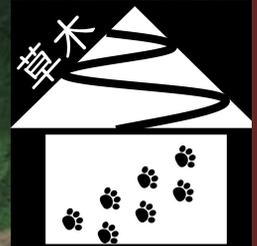
※ 過去の写真は、竹中さんからいただいたもののほか、水窪文化会館より提供していただいたもの、町施工70周年記念誌に掲載されているものを含みます。また草木の情報については、竹中さんのお話のほか、「草木の民俗－磐田郡水窪町－（平成元年静岡県発行）」を参考にしています。

木材輸送手法

竹中さんと池島の中谷さんのお話や文献を参考にして、かつての木材輸送の手法と大雑把なルートを簡単に図にしました。正確ではないかもしれませんが、あくまで一例としてご参考ください。



■ 地域をめぐる
■ 草木後編
〜 山仕事の話し



■ 草木と山の仕事 ■

草木では、かつて林業が盛んに行われてきました。それぞれの持山で林業を営む人もいれば、兵越峠周辺の山林で林業を営んでいた「愛林社」という会社に雇われて働く人や、白倉の国有林で働く人も多くいたそうです。

自動車道の整備が不十分だった当時、草木で伐採された木材はどのようにして街場まで運ばれていたのでしょうか。

かつて草木に住んでいた竹中重利さんと実際に木材の搬出に携わっていた中谷博彦さんに話を聞くことができましたので紹介します。

※ 過去のモノクロ写真の多くは、天龍木材株式会社所に蔵されているもので、山道正一さんに提供していただきました。当時の木材搬出の手法をイメージしやすいように掲載したものであり、草木の当時の搬出の様子とは若干異なる可能性もあります。

■ 木馬 (きんま) ■

木製のそりに丸太を載せて、枕木状に丸太を並べた木馬道(きんまみち)の上を人力で引きます。平坦な場所では油をまいて滑りやすくした上で全力で引き、下りは体でブレーキをかけながら慎重に引いたそうで、その大変さは並大抵のものではありませんでした。

兵越峠付近の山から遠木沢までの間、遠木沢から渡元までの間に木馬道があったそうで、竹中さんが木馬道の跡だという場所を案内してくれました。丸太をゆっくり引いて下っていく屈強な人々の様子が目に浮かびました。木馬道は人の通り道でもあったようで、当時の地域の重要な交通路だったことがわかります。



木馬 (竜戸)



かつての木馬道跡



木馬と索道の積み替え場所 (場所は不明)



■ 索道（さくどう） ■
 空中に張ったワイヤーに丸太を吊って運ぶ輸送方法です。遠木沢から池島を結ぶ三キロほどの索道があったそうです。索道は街からの生活物資の運搬にも使われました。草木小学校から見上げると、遠木沢の集落に荷物は運ばれていく様子がよく見えたそうです。

■ 馬力（ばりき） ■
 文字通り、馬に丸太を引かせる輸送方法です。池島まで索道で運ばれた木材を馬力に積みかえて街まで運びました。池島と梅ヶ島の間にも、今も当時の面影を残した状態の馬力道が残されているので、当時ご本人も馬力の作業に関わったという中谷さん

んに案内していただききました。馬は池島に十七頭ほどもいたそうです。写真を見ると軽々と運んでいるようにも見えますが、重い丸太を諦めずに運ばせるのが大変だったそうです。「荷を引いて街に出たついでに映画を見たけど、その時に肝心の馬を街に忘れて家に帰ってきてしまったことがあったなあ」というエピソードが面白かったです。

川狩り（今の民俗資料館の川下付近）



中谷さんと馬力道跡（池島）



渡元：木馬・川狩り・トラック輸送の要所



■ 川狩り（流送）^{かわが} ■
 川の流れを利用した木材搬出です。川の水量が少ない草木川ではできなかったですが、白倉川では盛んに行われていました。遠木沢から木馬で運んだ丸太の一部も渡元から流送したそうです。流送した木材は下流で筏に組まれ、さらに下流に流されました。竹中さんは幼少時代に白倉川沿いの険しい道を歩いてしばしば街に出たそうなのですが、その際、白倉川を流れる木材が良く見えたそうです。自動車道が少しづつ整備されてくると、渡元からの流送は徐々にトラック輸送に変わっていったようです。

2月8日



水窪の冬、ツゴノ沢大滝
 ツゴノ沢大滝に行ってきました。辰之戸から沢を登っていくと現れるこの滝は、冬の厳寒期になると見事な氷壁の姿を見せてくれます。落差五十メートルもあるうかという滝が凍り付いている様子は、非常に迫力があります。

新聞などでも取り上げられたためか、私が訪れた時も二十人程度とすれ違いました。今年は積雪が多かったです。今年（少なくとも二月初旬時点では）足神社より上は道路が凍り付いており、辰之戸より上は積雪でもとから歩いて往復でも一時間程度しか時間変わりませんので、無理せず下の方から歩くのが無難だと思います。

水窪の冬の風物詩とも言えるこの景色を安全に楽しんで頂けたら嬉しいです。

1月29日

